

【伊豆大室山】

大室山山麓の『さくらの里』の閑散とした駐車場で車から降りると河津桜？だろうか、五分咲き程度花開いている。その他には殆んど花は開いていない。

大室山への登山道を捜しに浅間神社周辺を周回するが「登山禁止」の文字ばかりである。中年の夫婦連れも登り口を捜していたが諦めてリフト乗り場に向かっていった。私たちもリフト乗り場を目指す、が、強風のためリフトは動いていないので駐車場に戻る。

帰りの途中、同行の女性達は大室山の斜面を観ている。日光と強風の中、斜面がざわついている。薄が自ら意志で

予定通り日曜日の野焼きが風雨で延期しなければ黒い痕しか見られなかつた。暫し見惚れてしまつた。

太つてゐるかどうかは判らない。

かんのん浜は砂地ではなく大小様々な角の取れた石がたくさんある。大室山から流れ出た溶岩大地はがつしりしている。イソギク、石楠花のような葉の植物（トベラというらしい）が所々に生えている。

桜の満開には程遠いが、小さな子は嬉しそうでお母さんも楽しそうだつた。

大室山頂上から見たかつた次の目的地城ヶ崎海岸へと向かう。

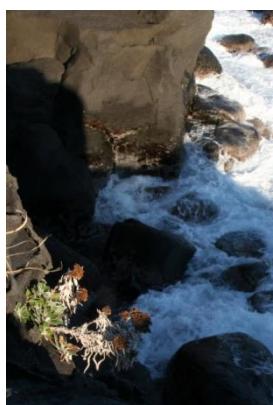
【伊豆城ヶ崎海岸】

三毛などの数匹のネコが出迎えてくれるが、傍には寄つて来ず、付かず離れずの距離。毛は寒さ対策かフサフサしているようだが、触れないでの

陽射しがあり風を遮る場所は暖かい。今年の立春頃からそう感じてゐる。しかし、太陽が隠れたり、風か出てくるとあつという間に寒くなる。

付近は磯釣りのメッカらしく釣り人がたくさんおり、時折魚を釣り上げている。ウキの先にはカモメが群れて魚を狙つたり波間に浮き休んだりしている。トンビも高く滑空している。カラスは釣り人近くの岩場で羽を休め釣り人からのプレゼントを期待していけるのだろうか？

台地の先っぽにある真球のドリルストーンには波飛沫が



舞つていたトンビが突然海面に急降下し魚を驚撃した

ようだ。鎌倉と異なりカラスがトンビを追いかけるが、トンビは断崖絶壁上に止まるとカラスは諦め、去っていく。いつしか、何事もなかつたようにならぬまま、とうに落ち着いた岬に戻つてゐる。

こんなのんびりとする時間は久々なので、潮が引くのを待つ間も有意義な時間が持てた。
◆2
月17日
◆S々木(雅)、K端、TK、

フランスの作家マルセル・プルーストの『失われた時を求めて』に『発見の旅とは、

しかし、いつも新しい視点は見つからない。むしろ、他の方の会報の山行文の中に『片栗が凜として男性的』『山は協調性が大事!』などはつとるものを見つけることが

新しい景色を探すことではなく、新しい視点を持つことである』という言葉があるらしい。



多い。今回の旅でも同行者から新しい視点を提示して戴いた。

同じ山行でも視点・感じ方など十人十色。同じならそれはそれでまた微笑ましく楽しい。色々な方から色々な視点・観点の山行文の投稿を強く希望しています。